



廿日市市教委だより

令和2年
1月10日
号外

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～



令和2年の新しい年が明けました。本年も、事務局一丸となって学校のために力を注いでいきたいと思います。どうぞ、よろしくお願ひします。

いつもより暖かい冬休みでしたが、リフレッシュできましたでしょうか。とは言え、新学習指導要領の全面実施を目前にして、いろいろと考えを巡らせていた先生もおられることと思います。

この度、市教委だよりの号外を発行することとなりました。連載記事は一時お休みして、年末に開催した研修の様子等の記事を掲載しています。今年度は、第10号まで発行予定です！お楽しみに！

SDGsとは？

持続可能な世界を創るために、一步を踏み出そう！

サステイナブル ディベロップメント ゴールズ

「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」

- ◆2015年に国連で採択された「2030年までの達成をめざす17の目標」
- ◆国際機関、政府、企業、学術機関、市民社会、子どもも含めた全ての人が、それぞれの立場から目標達成のために行動することが求められている
- ◆キーワードは「誰一人取り残さない」



様々な社会の課題とSDGsとのつながりを知り、「持続可能な世界を築くためには、何をしたらいいのか。また、将来自分はどのように目標達成に貢献できるだろうか。」と考えることが、2030年の世界で主役となって活躍している子ども達に課せられたミッションであり、廿日市市としても、市を挙げてSDGsに取り組み始めたところです。

そこで、少しでも多くの先生方にSDGsについて知っていただくために、12月26日(木)

に広島城北中・高等学校の中川耕治教頭先生(2030SDGsカードゲーム公式ファシリテーター)を講師としてお招きし、「ゲームで学ぶSDGsワークショップ」を開催しました。

なかでも大いに盛り上がったのが、カードゲーム体験でした。ルールは、与えられたお金と時間を使って経済や環境に関する事業のシミュレーションを行い、人生のゴールを目指すというものです。

「ゴールを達成すれば、豊かな世界になっているのだろうか？」

前半終了時のこの問いかけによって、後半の先生方の動きが変わってきました。多くの先生方が「前半は自分達のゴール達成のことしか考えていなかったけれど、後半は世界全体のことを考えて活動を実行するようになった。」と振り返っておられました。

このゲームを通して、それぞれの価値観をもった人たちが共存する世界の中で、どのようなことに気づき、どのように行動するかを体験することができたのではないのでしょうか。



【参加者の感想】

- ゲームを通して、その中で考えたものの見方や考え方をどう自分の生活で生かしていくのが大切であるので、振り返りが最も大切だと感じた。
- カードの内容が難しいように感じたが、生徒の考える視点が広がることや、やりながら目標達成のために何が必要かを実感できるのでよかった。
- 学校のカリキュラム・マネジメントの視点として生かすことで、各教科や行事をリンクさせ、全教育活動を通したものにつながると思う。

各校における総合的な学習の時間では、様々なテーマを設定して課題に取り組みられていると思います。先生方が「今取り組んでいる課題はSDGs17の目標のうち、どの目標に当てはまるのか。」と意識して指導することによって、子ども達も意識して取り組むようになります。そして、意識して取り組めば、それは知識になっていきます。持続可能な世界を創るために、一步を踏み出してみましよう！

問題行動の背景にある学習のつまずき

担任の先生の指導が聞けず勝手な行動を取ったり、攻撃的な言動を繰り返したりする子どもの対応に悩んでいる背景として、小学校高学年、中学校でも「ひらがなやカタカナが正確に書けない」「九九を覚えていない」という実態の子ども達がいる場合があります。また、不登校傾向の子ども達の中にも同様の実態の子どもはいます。問題の背景には様々な要因がありますが、少なくとも小学校低学年で学習のつまずきが見られる子どもが存在することも確かです。



学習支援の中で子どもの自己肯定感を育む

昨年、四季が丘中学校区で行われた合同校内研修会において、講師の井上賞子先生(松江市立井東小学校教諭)は、「授業に参加できるかは、自己肯定感を支え適応を促す上でも重要」「そのために子ども達の学ぶ機会を失わせないことが大切」と語られました。学習の困難さを抱えた子どもは「どうせ僕にはできない」「私はダメな子だ」と自己を否定的に捉え、自信、意欲をなくしていきます。それに耐えられなくなり学習の場から離れて、結果的に問題行動や不登校に至る子どもも少なからずいるのです。

授業参加を支えるための、アセスメントと支援体制

小学校低学年で子どもの学習の困難さをアセスメントし、それに合わせた手立てを一斉指導や個別の場で行い、「できる自分」を感じさせていくことで、その後の生徒指導上のトラブルを減らすという発想も大切です。

全国的には、小学校第1学年の段階で全員に「ひらがな単語聴写テスト」を実施し、つまずきが見られた子どもには放課後の補充学習や宿題、通級指導教室等の場を使って支援している学校もあります。また、第3学年スタート時に全員に「九九テスト」を実施し、まだ覚えられていない子どもは速やかに解決するように、同様に放課後の補充学習や宿題等で取り組ませている場合もあります。

「今問題が起きていないから」と様子を見るのではなく「今のうちから支援しよう」との意識で、学校全体で子ども達の困っている声を拾っていきましょう！



「廿日市おすすめの本201冊(第2版)」が完成しました!

この冊子は、廿日市市子どもの読書活動推進計画(第二次)に位置付けられている「本を読むきっかけの提供」の取組の一つとして、平成29年度に初版を発行しました。

今年度、第2版の発行にあたり、5月に各小・中学校、幼稚園、保育園をお願いをしたところ、先生や子どもたちから多くの本を推薦していただきました。初版同様、皆さんから推薦していただいた多くの本から「廿日市」にちなんで、**201冊(201=はつがいち)**を選び、まとめた冊子が完成しました。各学級、図書室用に配付していますので、ぜひご活用ください。

図書委員や子ども司書養成講座を受講している小学生など、様々な立場の方が推薦しているところがポイントです。

「マジック・ツリーハウスシリーズ」

それぞれの場面で、ドキドキしたり、ワクワクしたりして、読んでいてとても楽しいです。

ハト語でカラスに話しかけても、カラス語でないと通じないなんて・・・
〈小学生推薦〉



けんみん文化祭 ひろしま'19文芸祭 (川柳)

宮園小学校から3人の作品が入賞しました。紹介します!

- 〔入賞〕 クーラーが休ませてよとすねました 中本 一穂 (六年)
- 〔特選〕 トンボがね学校中を飛んでいる 山位 禾穂美 (四年)
- 〔広島県知事賞〕 給食が食べて食べてと喋っている 早瀬 羽汰 (五年)

